

## 3つの目で見た郷土香川《第21回》

### ～粟島漂流紀行～

今回は、三豊市詫間町にある粟島へ旅してきました。JR予讃線・詫間駅から、三豊市コミュニティバス詫間線で約18分で須田に、そこから約130分直進すると粟島汽船の須田港待合所に到着します。実はこの待合室自体が「みなとのロプハウス／山田紗子（すずこ）作」というアート作品（右最上写真）なのです。



須田港から15分で粟島港に到着し、約5分ほど歩くとルポール粟島という食事や宿泊もできる施設があり、この施設の門前には、役目の終えた漁業に用いられる浮き（ブイ）を再利用したかわいらしい作品（右上から2番目写真）があり、このような作品は島中様々な場所にいずれも特徴のある作品としてあります。そして粟島海洋記念館（旧粟島海員学校／本誌表紙写真）は、1920（大正9）年に建築され、現在は海員学校や海洋関係の資料館及び研修教室（左下最上段写真）、アート作品の展示室などに活用されている国指定の登録有形文化財となっています。建物内部は一般公開されており、廊下を歩いていると木の香りがほのかに漂ってくる懐かしい気分させられます。



ここで粟島海員学校の歴史について少しふれたいと思います。粟島は江戸時代から海運業の盛んな島であり、明治になって北前船から洋式帆船、汽船へと変化していき、船の操船には海技免状（国家資格）が必要となった背景もあり、その技能と学術を取得するために、1897（明治30）年5月1日



に粟島村議員でもあった中野寅三郎が村立粟島海員補習学校を設立しました。その後航海学校、商船学校と変遷し、三豊郡各町村組合立、三豊郡立、香川県立、官立と推移し、航海科と機関科の学校として発展を遂げてきました。瀬戸内海にある小さな村がこのような学校を設立、学校の敷地の無償提供など維持発展に協力するには、並々ならぬ努力があった事と思われます。1945（昭和20）年11月8日に戦後処理で米軍が検分のため来校。結果として海軍関係の教育機関と誤解され、校舎を焼き払いの危機に直面しましたが、説得の末に最悪の事態は免れたが、やむなく学校備品などの処分に至り、教育機関としての機能が停止となり、1946（昭和21）年3月廃校になりました。同年4月に米軍に校舎を接收された宮崎海員養成所（1年制）が移転、1947（昭和22）年4月粟島海員養成所として発足、1952（昭和27）年8月に海員学校に改称、1969（昭和44）年1月に2年制へ変更となりました。高学歴化、やがて海運業界不況で需要が減少し、合理化と船員の外国人化が進み、入校者が定員満たなくなり、1987（昭和62）年3月最後の卒業生を送り出して、長い歴史の幕を閉じることになりました。





次は道に迷いながら（漂流？）訪れたのは漂流郵便局（前ページ一番下の写真）です。宛先不明のはがきを受付して、いつかその宛先不明の存在に届くまで漂流私書箱に漂わせ預かるという、そんな郵便局（アート作品）なのです。訪問者はそれらのはがきを読むことができ、それが自分宛だと感じたら申し出てから持ち帰れます。また自身の思いをはがきにしてこの郵便局に送り漂流させることもできます。これらの中には海外からの漂流？もありました。

漂流郵便局は2013（平成25）年10月5日から1ヶ月間、第2回瀬戸内国際芸術祭秋会期に開局、現代芸術家の久保田紗耶（さや）さんは、粟島に流れ着いた漂流物に思いをはせながら、当時の旧粟



漂流郵便局の消印



島郵便局舎のガラスに写る自分の姿を見つけたときに、「自分もここに流れついてしまった」と感じたなどで漂流郵便局という名前を発想されたそうです。久保田さんは局員、郵便局には局長もという事で、粟島郵便局に45年も勤務され、そのうち17年間は局長として勤められた中田勝久さんが就任されました。会期終了すれば終わるはずだった漂流郵便局は、この局長さんが届いたはがきの管理、見学者対応、局舎の無償提供（この局長さんの所有だった！）することで、今日まで継続しています。なおはがきを送られる場合は、送ったはがきの返却はしない、著作権は漂流郵便局（久保田紗耶さん）に譲渡する（詳細は漂流郵便局HP参照）、差出人住所は不要ということをご了解されてからお送り下さい。

この粟島にも、島四国88カ所巡りがあり、1827（文政10）年粟島の北前船が88隻になったのを機会に、堺屋治右衛

を寄進させて建立したのが始まりです。現在、巡礼日は毎年4月29日に実施されており、粟島の自然を感じながら巡礼することができます（梵（ぼん）音寺／境内に1番札所／右真ん中写真）。また第36番札所（右一番下写真）付近は砂浜（島の幅）が狭いところでは50歩程度しかない、しかも左右が海という何ともミステリアスな場所でした。



《参考資料など》詫間町郷土誌シリーズ第1号／船員を育てて九十年粟島海員学校始末記（1987（昭和62）年／詫間町（現三豊市）文化財保護協会発行） 漂流郵便局（2015（平成27年）／久保田紗耶著） 三豊市観光協会HP 瀬戸内国際芸術2016公式HP 漂流郵便局HP 漂流郵便局の成り立ちと活動（漂流郵便局長様ご提供の資料）

《開館情報》 粟島海洋記念館（香川県三豊市粟島1541）／毎週月曜日休館 午前9時～午後4時開館 入館料無料 漂流郵便局（香川県三豊市粟島1317-2）／毎月第2・4土曜日開局 午後1時～午後4時開局 入局料無料（瀬戸内国際芸術祭2016秋会期中（10／8～11／6）は無休 午前9時半～午後4時半開局 入局料300円）